

公開（ウェブサイト）用

第1回 富士市立小中学校適正規模等 基本方針策定委員会議事概要

日時 令和元年8月29日（木） 午後6時30分～午後8時20分

場所 富士市消防防災庁舎 3階 研修室

出席者

[検討委員]

武井 敦史 加藤 寧 川崎 里恵 清 淳也 中山 早由里

荻野 克雄 梅田 馨 小泉 卓登

会議の概要

委嘱状・辞令書交付

教育長より委嘱状・辞令書を交付する。

教育長あいさつ

本日は、公私共にお忙しい中、第1回 富士市立小中学校適正規模等基本方針策定委員会にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。

全国的に少子高齢化が進み、本市でも児童生徒数の減少が見込まれ、今後20年間で現在の3分の1の児童生徒数が減少すると予測されている。

このように将来における児童生徒数の減少を見据え、児童生徒にとりよりよい教育環境を整備することや教育の質の更なる充実を図ることが、これまで以上に重要になる。

そのため、教育委員会では、本日お集まりの委員の皆様方に多角的な視点からご意見を伺い、本市小中学校の適正規模適正配置に関する基本的な方針を策定してまいりたい。

他市等の事例からも、学校の統廃合等が何かと話題となるが、一番大切なことは、子どもたちの教育環境をよりよいものにしていくことである。子ども同士の学び合いや、切磋琢磨し合う場を適切に提供し、児童生徒の豊かな学びの継続・維持が重要と考えている。

本日は、教育委員会からの公立小中学校の現状についての説明が中心となるが、今日を含めて（今年度）3回程度開催予定の委員会において、基本方針案についてご検討いただくことになる。

ご審議の程、よろしく願いしたい。

委員自己紹介

各委員が自己紹介する。

策定委員会の設置について説明

事務局より富士市立小中学校適正規模等基本方針策定委員会の設置について説明する。

委員自己紹介

各委員が自己紹介する。

議 事

(1) 会長選出

会長の選出を行う。

(2) 会長職務代理者指名

会長が会長職務代理者を指名する。

(3) 富士市の現状と課題について

教育委員会事務局が、本市の現状と課題を説明する。

(4) 意見交換

1 本市の学校の児童生徒数、配置等

会長	事務局が説明した学校の児童生徒数、配置等のイメージが持てたか。 もう少し詳しく伺いたい点や質問があれば、お願いしたい。
	意見なし

2 本市の児童生徒数の推移等について

会長	人口推計と中学校区ごとの傾向へのご質問やご意見をお願いしたい。
C委員	小中学校の現状と中学校区ごとの傾向がリンクしていない中学校区があるが、何か特別な原因はあるのか。
事務局	中学校区ごとの傾向は、規模ではなく、児童生徒数の減少率の大きい順に並べている。

会長	あくまで推測であるが、県下どこも同じと思われるが、特に想定浸水域との関係が相当強いのではないだろうか。海沿いで浸水域に入っている学校は、子を持つ親の心理からすれば、もしものことを考えると、やはり選択肢があれば移ると考えてもおかしくはない。同様の他の中学校区の減少率が低く、むしろ不思議である。立地条件は分からないが、丘の上にあるのか。
D委員	海拔14mあり、海沿いにあるが、高いところある。
会長	なるほど。
E委員	駅付近は低いが、その南側は高い。
事務局	補足させていただくと、この地区に限らず、本市の人口は、東日本大震災を受け、浸水域やハザードマップ等により、海沿いに新たに移住する人は少ない傾向にある。この地区は、小学生の数を見ると、6年生155人に対し、1年生81人、2年生90人と大きく減っている。これは、震災の影響が、正直ないわけではないが、減少が落ち着き、多少持ち直している部分もある。富士市の海沿いにある地区に関しては、震災後、住民の異動を含め、当時の時勢の影響を受けているところが見られ、推測はできるが、確定できる要因ではない。
会長	地震や津波の影響を除き、やはり人が少ないところほどさらに減っていく状況にあることは、全体の傾向といえるかもしれない。 この数字等は、またお目通しいただきたい。 これは、あくまで推測でしかないということ、資料の数字は、いわゆる社会減が含まれていない。つまり、出生した地区の小学校へそのまま入学する前提で数を推計しており、子どもがある程度成長し、例えば、もう少し大きな規模の学校で育てたい、あるいは、その反対に、できるだけきめ細かく教育を受けたいという理由から、保護者が住居を変更する可能性はある。それらを含めるともう少し推計は変わってくることをお含みいただきたい。

3 国が考える望ましい学校規模と配置について

会長	説明を受けた内容は、今後の議論のたたき台になる部分かと思われる。どのような角度からでも構わないので、ご意見やご質問をお願いしたい。
A委員	資料に小規模校のデメリットとして、児童生徒の人間関係が固定化しやすいこと、単学級が多いためにクラス替えができないことが指摘されているが、小規模校は、比較的昔からある家庭が多く、子どもの序列が親や祖父母の代から決まっている一面がある。そのため、クラス替えができないことが、意

	<p>外と負担になることは事実としてある。</p> <p>例えば、6年生が今頃になり1、2年生の時のことでトラブルになり、もっとひどいと、親同士のトラブルを掘り起こしてくることもあると聞いた。小規模の学校で、人間関係が固まっていると、なかなか難しい面もある。一見ほんわかしてよいと思うが、祖父母世代から仲が悪いご家庭の子が同じ学級にいと、9年間その関係を引きずり、結構辛いことである。これは、経験から確かにいえると感じている。</p>
D委員	<p>私も小規模の中学校に勤務した経験がある。当時は全学年2学級で、現在は2学年が1学級となっている。</p> <p>良さとしては、一人一人がリーダーを務める機会が多いことである。非常に個が立つというか、大規模校なら埋もれてしまうような生徒も、下級生を引っ張り、生徒会を運営している。どの子もリーダー性を発揮しなければならない機会が与えられるという意味で、非常に伸びるという印象がある。</p> <p>しかし、その当時でさえ、社会性を涵養する機会が乏しいことは、私も実感した。やはり、小さく固定化された社会（世界）で、小学校から上がってくるため、子どもたちがいろいろな人や違う意見とぶつかる中で折り合いをつけるという社会性を育むには、固定化された人間関係ではデメリットになることを感じている。</p>
F委員	<p>私が中学生の頃は全学年3学級で、小学校では2学級だった。小学生の時に読んだ青春もののマンガをとおして、中学校は、いろいろな小学校からいろいろな人が進学してきて、部活もでき、多様な文化に触れることもでき、小学校の6年間と違い、新たな3年間を迎えるというイメージを抱いていた。しかし、実際はほぼ小学校と同じ仲間、他の小学校から一部の児童が進学し、想像していたイメージとは全く違った。小学校であったいじめは中学校でもあり、小学校でいじめられていた子は、中学校でもいじめられていた。そういう子にとっては、逃げ場がないと感じた。中学校は大きなところで、自分はいろいろなことを探ろうと思っていたが、たった1学級しか増えないという印象で、改めて振り返り、このような感覚を思い出した。</p>
会長	<p>事務局に学校の教員の方はどの位おられるか、挙手願いたい。</p> <p>ごく簡単で構わないが、おそらく良い部分やそうでない部分があるろうかと思うので、一言ずついただきたい。</p>
事務局	<p>私は、以前D委員と同じ中学校の校長を務めていた。前任校では、2人で</p>

	<p>1台の卓球台が使える。部活も数少ないが、常にレギュラーで使いたい放題である。F委員が言われるように、同じメンバーで進学するため、小学校では振るわなかった分、中学校で変わろうとすると、かなりのエネルギーを必要とする。回りの生徒たちが持っている固定概念を変えなくてはならない。</p> <p>しかし、小中連携と並行し、どのように進めるかを考えた場合、ずっと同じ人間関係が続くことを考慮すると、学校規模の適正を考えることは、とても大事かと思う。</p> <p>前々任校は、大規模中学校の教頭を務めた。部活では、テニス部が男女で120～130人いた。コートは2面しかなく、プレーできるのは4人だけなので、他の生徒は、他の場所で活動せざるを得ない。しかし、大きい学校はパワーがあり、多様な考えに触れ、議論できた。</p>
事務局	<p>私はずっと中学校勤務で、中規模から大規模の学校を教頭まで経験した。こちらに勤務する前に小規模の小学校の校長を務めた。</p> <p>小規模の中学校の経験がないため分からないが、中規模から大規模の中学校では、学級対抗で子どもたちが自発的にいろいろなことを考え、行事等に取り組むことができた。当時から変わることなく感じている。</p> <p>小規模の小学校では、特に低学年の児童に対し、本当にきめ細かな指導ができると感じた。小学校1年生は、まだ何も分からない状況で、20～25人の単学級だったが、学級担任が子どもたちの個性を見取りながら指導できると感じつつ見ていた。しかし、中学年以降は、先程から出ている人間関係の固定化の問題を感じた。子ども同士でけんかをすることもある中で、大きなトラブルに発展すると、クラス替えができないため、1年間は離すという対応ができない。同じ教室の空間で、一緒に生活していかななくてはならないところがかわいそうだと、中学年以降の様子を見ていて感じた。</p>
事務局	<p>私も大規模の中学校ばかりで、小規模校の経験がない。子どもたちに望みたいことは、いろいろな感覚を味わうことである。多くの人からいろいろなことを浴び、成長することが一番の願いでもある。そのため、ある程度の人数的中で揉まれて育ててほしいと思う。ましてや、これからの社会で、いろいろなところへ出て行く子どもたちを育てていかななくてはならないので、やはりある程度の人数的中で切磋琢磨したほうがよいと考える。</p> <p>先日、小規模の小学校を見学する機会があった。子どもたちも先生方も雰囲気温かく、仲が良いと感じた。そのような環境で子どもたちと教育活動</p>

	<p>を実践することは、それですばらしいことだと感じた。</p> <p>しかし、より良いものを考えていかななくてはならないため、この会で委員の皆様のご意見を伺いたいと思っている。</p>
事務局	<p>私はほぼ小学校で、中規模から大規模の学校に勤め、小規模校の経験はない。子どもたちが競い合うことができる環境で、クラス替えもできるため、新しい年度でリセットできるよさがあったのではないかと感じている。</p> <p>一方、事務局において、小規模校を見る機会があり、先生が目が行き届き、地域の方々も子どもたちのことをよく知っており、多くの大人に見守られ、大切に育てられているという安心感や温かさが、よさとしてあると感じた。</p> <p>一方、人間関係が固定化されていく中で、マイナス面も出てくるのではないかと感じている。</p>
事務局	<p>私は高等学校の教員で、中学校の生徒を受け入れる立場にある。ほとんど小規模の中学校から進学する高校へ勤めていたときは、先程も免許外の話があったように、9教科の先生が揃っていない状況があった。私は理科の教員であるが、理科の専門の先生の下で学んだ生徒と、免許外で学んだ生徒では、実験実習の活動の量や学習の深まりの面で、専門外の先生から学んだ生徒さんが苦労しているように感じた。実技教科は、最も違いが出ると思われる。例えば、音楽の先生がおられない学校を卒業した生徒さんには、このような傾向が顕著に見られるように感じた。</p>

4 校舎の老朽化について

会長	この点について、ご意見や質問はあるか。
A委員	50年以上経過したら、順次建て替えていくという認識でよろしいか。
事務局	<p>建物の改築はここで答えられないが、実際に60年、65年経過してからどうしていくかは、ここ1、2年の間に検討していかなければならない。</p> <p>長寿命化の課題もある。それに関しては、予算も含め、いろいろな課題があり、何年経ったからすぐに建て替えるということを市で決定はしていない。</p>
会長	<p>私は他地区で勉強した経験があるため、申し上げる。基本的に鉄筋コンクリートの建物は、コンクリートの部分が建ててから30年間で強くなり、その後弱くなっていく時期が来るそうである。中に鉄骨が入っているので、中の鉄骨がしっかりしていれば、60年くらい経っても最初に建てた時と劣らない強度を保つことができる。50年経ったから危なくなっているという話</p>

	<p>ではない。問題は、コンクリートはアルカリ性で、アルカリ性が維持された中では鉄は錆びない。鉄が錆びない限りは問題ないが、時間が経つと中性化が起こる。酸性の土壌にある地域や、海が近い地域で中性化が進み、酸性になると中の鉄筋が錆び始める。そうすると校舎の強度が保てなくなり、危なくなる。先程の長寿命化とは、酸性化しつつあるコンクリートのアルカリ性を保つ処理をする。それは60年経って鉄骨が錆びた状態だと遅い。30年や40年経った時に、そのプロセスが始まる前に処理すれば、鉄筋が80年くらいもつというメカニズムのようである。私は専門家ではないが、聞きかじりの知識で説明した。</p> <p>この資料を見ても、そうなのかというしかないと思うが、校舎の維持費や建築については、何棟ではなく、延べ床面積に比例してかかってくる。単位が平方メートルとなる。実際に校舎が、市の公共施設の何割にあたるかは、4割くらいを占めている自治体が多い。富士市はどのくらいの割合か。</p>
事務局	7割である。
会長	富士市は校舎の割合が大きい。人口が減れば税収が減るので、より多くの面積を保有しようとするコストがかかってくる。言い換えれば、他の地域に比べ富士市は古い中で教育を行わなければならないということで、結構深刻な問題であると思う。ここでその問題がどこまで議論できるかは分からない。
事務局	本市は特にという話があったが、全国的な傾向で公共施設の老朽化が一気に押し寄せている。市としても公共建築物を長寿命化していかなければならない。本市も基本方針を立て、教育委員会も公立学校の校舎が多く、一斉の改築は好ましくないため、費用の平準化、長寿命化の計画を立てている最中である。建物本体が老朽化してはいけなないので、使える保証の中で、長く使うために、当然改修していかなければならない。建物は対応を行っている。それは別の議論として、情報として公共建築物の現状をご理解いただきたい。

5 実態調査について

会長	ただ今の点について、質問やご意見はあるか。
E委員	学校規模の適正化の課題や懸念と書いてあるが、小中一貫にすると地域を越えた学校になる。中学校区は地域を越えてしまう。富士市は26地区あり、地域で事業を行うにも小学校や中学校と協力しながら事業を実施している。

	<p>地域住民の合意も必要だ。教育委員会から地域への説明があるのだろうか。まちづくり協議会では、まちづくりの組織を1つにしようという流れがあるが、地区の中にいろいろな団体があり、区長会と町内会とは別に、まちづくり協議会や生涯学習、交通安全の組織があり、それらをまちづくり協議会としてまとめていくという流れが、役所の方針である。地域の拠点は学校であり、地域の人たちと協力しながら子どもたちを守っている。学校が地域を越え、小学校が全部中学校に通うとか、距離によってといった事務局の説明があったが、それらを実施する場合にしても、平らな4キロと坂の4キロは、坂のほうが大変である。子どもたちをお願いしていくのも大変である。地域の合意を得ていくのも、適正化していくにも、皆さんのご意見を聞きながら進めていけるとありがたい。</p>
会長	<p>これは自立した委員会なので、要望を出すのは最後にまとめて行う。今言われたのは言うまでもないことであるので。</p>
E委員	<p>言っておかないとだめな場合もある。連合会長なのでいろいろな委員を務めているが、これまでの経験で、黙っていると何も意見がないと判断され、動いていってしまう。思っていることは言っておく立場にある。これは私見ではなく、この後連合会の会合があるため、こういう流れになっていくことを26地区の会長さんに報告する義務があると思っている。</p>
会長	<p>全国調査でも出ているとおり、地域住民との合意形成は、他地区の経験で、100%の人が賛成ということはありません。その中で少しでも多くの方が納得できる形を生み出していきたい。</p>
事務局	<p>基本方針が策定された後、教育委員会事務局が地域に入り、地域の声聞いて考えてまいりたい。小中一貫や適正規模は、全市全部同じように進めるのではなく、各地域の実情を考慮し進めてまいりたいと考えている。</p>
A委員	<p>最近、地域の方や保護者から、本市の小中一貫について聞かれることがある。以前から自分の想定や本市が目指している小中連携や一貫は、地域の方や保護者、富士市の住民の方が思っていることと少し違う気がした。最近学校側が進めていく小中一貫と、地域住民が思っていることがずれている感じがする。学校側が地域や保護者に方向性を発信していかないと、小中連携や一貫で我々が思い描くイメージが違う方向に進む気がする。E委員が地域の方にお伝えするときに、聞く方も違うように受け止めてしまう恐れがある。</p>
E委員	<p>A委員の意見はよく分かる。私が地域連合会で申し上げるのは、こういう</p>

	<p>流れがあることだけで、私見は言わない。各地区には、教育委員会からこういう話があった場合は、地域で考えてほしいとことを伝えるだけである。こうしなさいとか、これはいけないということは、今の立場では一切言わない。</p> <p>しかし、懸念はある。以前に他の会合で意見を言わなかったことがあった。敬老会のことで敬老会在り方委員会で審議されたが、77歳以上の方にお金を使うことに、会長になったばかりで黙っていたら、会長は何も言わなければ賛成だろうと言われ、言わないと連合会はそういう考えと判断された経験があり、発信していく必要性を感じた。26地区の会長は、まちづくりについて全部考え方が違う。自分の意見は言わないが、最後に皆さんの意見をまとめればよいと考えている。</p>
会長	<p>是非言っていたきたいのは、少なくともこういう状況に危機感をもって議論をしているということである。いずれパブコメを実施するので、その時にはきちんと公開して、市民の意見を仰ぐ機会がある。</p>
E委員	<p>私もかつて役所に勤務し、パブリック・コメントをした経験があるため、それ以上のことは申し上げない。</p>
F委員	<p>小中一貫教育という言葉で戸惑っているが、もう一回小中一貫の定義を説明していただきたい。</p>
事務局	<p>小中一貫教育というと、イメージ的に校舎を一緒の敷地内に置き、一貫した教育を実施するというイメージを描かれている方が多いと思うが、そういう学区は限られる。本市が進めている小中連携・一貫教育は、今の小中学校の校舎を生かし、場所は分離した中で小中一貫教育を行っていくことである。E委員から出てきた中学校区を例にすると、A小とB小を新たなところに移動し、今ある中学校に3つの学校を一緒にし、小中一貫教育を実施するというのではない。現在の小中学校の場所、A小はA地区、B小はB地区、中学校は今の場所でそれぞれの施設を活用し、いろいろな所を摺り合わせ、互いの階段を低くし、中学校区で育てたい生徒像を共有し、その実現に向け、各小中学校が取り組んでいくことが、基本的な本市の小中一貫教育の考え方である。校区により、今後小中学校が一緒の場所になるという可能性があるところもある。例えば一つの小学校と一つの中学校があるようなところは、可能性はゼロではなく、今公表されているところで、富士川第二小学校と、富士川第二中学校は、今の中学校の敷地に小学校の校舎を建て、施設一体型で実施するという例がある。</p>

会長	他にはあるか。全体を通してでも構わない。せっかくの機会であるので、感想で良いので、何か一言いただければありがたい。
G委員	私は、本市ではなく大規模校に在籍し、小規模校の現状を初めて聞いた。埋もれてしまうとか、何か自分が得意なことを披露する場で、みんなと比べられる場面が多いということから、どちらかという、小規模校に憧れがあった。先程、小規模校のデメリットについて話を聞き、今後これからいろいろな形で、一つの小学校と中学校を合わせるとか、形を変えていくことがその子どもたちの成長につながり、現状よりもこれから子どもたちにとって良い環境になってくるのかと思うと、いい話が聞けたと感じている。
H委員	私も規模が大きな学校に在籍した。1学年6、7クラスあった。4月の時点で6クラスだったが、1人転入して学級が増え、途中でクラス替えをしたことがあったような人数の多い学年だった。人数が多いことで競い合い、本当に良い効果があったと思う。自分が子育てをして感じたことは、子どもの性格にもよることである。もし我が子が大規模校の中にいることを考えると、馴染めなかったのではないかと思うこともある。それなりに規模が大きい学校に通学し、少ない中でやっていった方が良かったという思いもあるし、自分が大きい学校で、人数の多い中で揉まれた経験は、これから大事だと思うので、判断が難しいと思うが、ある程度の人数がいて、大人の目が行き届いて子どもたちを育てていくのが望ましいと思う。
会長	今回は現状の認識を共有し、次回以降は事務局から素案を提案していただき、それを軸に具体的な議論を展開してまいりたい。特に確認したいところがあれば事務局にお返しする。

次回の日程等について

事務局より、今後の会議日程について説明する。次回は、10月24日（木）庁舎5階第2会議室にて開催予定。

閉 会